



世界に希望を生み出そう

第2549号

高知東ロータリークラブ 週報

11月8日.2023

本日 11月8日(水)12:30 ザクラウンパレス新阪急高知
ゲストスピーチ

「こうち被害者支援センターの活動と寄付等について」
こうち被害者支援センター 高知西RC名誉会員 岡内 紀雄氏

次週 11月15日(水)12:30 ザクラウンパレス新阪急高知
ゲストスピーチ

「知っておきたい健康保険のはなし」
全国健康保険協会高知支部 企画総務グループ 松田 恵美氏

第2595回 例会報告／令和5年10月25日 天候 晴

◇ロータリーソング

「とんぼのめがね」

◇来訪ロータリアン及びお客様

高知ロイヤルRC

二宮邦江氏（長期交換カウンセラー）

長期交換学生

カミラ・チャベスさん

◇会長挨拶



皆さん、こんにちは。
金木犀の甘い香りが漂い、秋が深まりました。若いときには昼間の花には関心がなく、夜の花の方が好きでしたが、年齢を重ねると花を見て季節の移り変わりを感じ、美しい花を見て美しいと思う心が美しいと思います。

本日は、午前中に高知市保健所に伺い、今年度のロータリー財団委員会の補助金活用の品物の贈呈を行ってきました。豊田所長様には、後ほど卓話をよろしく願いいたします。

ロータリーの10月は「地域社会の経済発展と米山月間」です。米山奨学会は日本以外の籍を有する日本の大学院、大学、または研究機関等に留学、研修のために在籍している個人に対して、国際理解と親善に寄与する目的として、日本ロータリー独自の国際奨学制度で、返還不要です。奨学生一人ひとりに世話クラブがあり、カウンセラーを定め相談相手になっている事業です。9月23日、米山奨学

会に松本委員長と参加していただいた資料を
発表します。

今年度新しく5名が奨学生になっています。期間は1年半から2年。黄 炳南（コウヘイナン）さん、中国の男性の方で高知県立大学、世話クラブは高知中央RC。曹 玉竹（ソウ ギョクチク）さん、中国の女性で高知大学、世話クラブは高知ロイヤルRC。シテイ ロダトゥル ファディラさん、インドネシアの女性で高知工科大学、世話クラブは高知RC。ザンドバキリ ザハラさん、イランの女性、高知大学、世話クラブは高知北RC。カジャイ チャヤノンさん、タイの男性、高知工科大学、世話クラブは香長RC。

なお、米山委員会とプログラム委員会で奨学生に卓話に来ていただくお世話をよろしく
願います。

来年1月より、米山記念奨学委員会の委員に、岡崎さんに就任していただきます。よろしく
願います。

◇長期交換学生
のカミラ・チャベスさんとバナーの交換
を行いました。



◇長期交換学生 カミラ・チャベスさん



こんにちは。私の名前はカミラです。土佐女子の学生です。カリフォルニアから来ました。18歳です。今日はここに来られて嬉しいです。日本の生活は、これまでのところ、とても素晴らしい経験です。ご協力ありがとうございます。よろしくお願いします。

◇ロータリー財団委員会より



先ほど、総合あんしんセンターで、高知市保健所に対してデジタル体温計20個、N95マスク10箱、カタログスタンド2台の贈呈式を行いました。お礼に感謝状をいただくとともに、豊田所長と地域保健課結核感染症担当係長の山崎マキ様

にもお越しいただき、卓話もしていただきますので、お聞きください。

◇ロータリー情報委員会より



検討ください。

◇幹事報告



予定です。

11月8日、勉強会を高知大神宮さんで行います。現在15名の登録です。おつかれさん会も段取りをしていますので、勉強会からのご登録を今一度ご

- 本日例会終了後、役員会を行います。
- 11月1日は理事会を行います。
- 新入会員中野さんの入会式を11月15日に行う

◇ゲストスピーチ

高知市保健所 所長 豊田 誠氏

「今後の高知市保健所の 新型コロナの対応」



コロナの第1波から第4波までは感染症対策でしたが、一昨年8月の第5波からは闘いというモードが加わったと思います。デルタ株に置き換わり、全国的にも高知でも感染者数が急増。最大値の更新が続き、クラスターが様々な集団で発生しました。対応スタッフの人数、電話回線、濃厚接触者、接触者へのPCR検査、いずれも対応が一杯になり、朝から夜まで保健所の10回線は通話ランプが点きっぱなし、スタッフの帰宅は午前2時、3時に及びました。入院ベッド、宿泊施設が一杯になり、陽性者には自宅療養をお願いする状況となりました。市長にヘルプのメールで状況を話し、庁内の保健師全員に兼務をかけるなど、総力戦の体制で、疫学調査チーム、自宅療養支援チームの2チームに分けて対応

を開始しました。自宅療養支援チームは健康観察として、保健師が電話やスマホで健康状況を確認するとともに、パルスオキシメーターの配送、貸し出し、連絡が取れない方へは保健師が訪問。生活支援、医療支援など状況に応じて必要な支援を調整。みんなの健康を守るためにスタッフ全員で取り組み、自宅療養者から1人の死亡者も出さず1カ月間にわたる第5波を乗り切ることができました。

しかし、その後の第6～第8波では、オミクロン株の特性として感染力が高まり、潜伏期間は短く、陽性者数は第5波と比較にならないほど爆発的に増加。保健所は対策を重点化、調査・検査・フォローを優先順位の高いものに絞り、職員を増員して対応。しかし、コロナの特性には追いつかず、感染は拡大、

高齢者施設、医療機関でクラスターが発生、基礎疾患を有する高齢者の死亡が増えました。特に第7波の4カ月半後の第8波は、冬場で、コロナ以外の救急医療のニーズも高まる時季でしたので、医療ひっ迫・崩壊が起きました。市民だけでなく関係者からも、なぜ入院できないんだといった苦情が多く、入院調整に就いた職員は疲弊が溜まりました。

この後、5月8日以降、コロナは第5類になり、季節型インフルエンザと同じ対応となりました。今年の8月、再び感染のピークがあり救急医療がひっ迫しましたが、現在は落ち着き、むしろインフルエンザが猛威を奮っています。

感染対策のポイントは、換気・手洗いの重要性は変わりなく、通院や高齢者施設の訪問では、感染予防としてマスクの着用は効果的です。今後の予想は難しいですが、コロナウイルスが強毒化せず、集団としての免疫ができ、波が低くなだらかになり、社会とウイルスの折り合いがついていくことを願っています。

このようなコロナウイルスとの闘いの中では、保健所は市役所の他の部署や市役所外の関係者の方から多くの支援をいただきました。保健所長としていくらお礼を述べても足りませんが、特に自宅療養支援チームで奮闘していただいたスタッフにはお礼の言葉を述べました。

98年、高知市が中核市になり保健所ができた年のことです。その9月、高知県を豪雨災害が襲い、高知市でも死者7名、床上浸水1万3,000世帯、大津地区を中心に一面泥の海となりました。保健所の平常業務は2週間ストップし、毎日保健師をはじめとする50人のスタッフが、まずは被災した市民の命を守るために、次に市民生活の回復の支援、健康を取り戻すために訪問を続けました。時間経過とともにどんどん変化する状況やニーズを、現場を訪問して把握する。把握した情報を整理して災害対策本部につなげ、課題を解決する。水害によって被った生活や精神的な負担の支援等、泥水の中、毎日バイクで出かけた保健師さんの力は心強く感じました。

この半年後、高知市中学校で結核集団感染事件が発生。初発は中学3年の女子生徒が重

症で発見され結核病棟へ入院。この事例がまれに見る結核集団感染だと分かったのは、2カ月後に行ったツベルクリン反応の判定のときで、すさまじいもので、我が国最大規模の結核集団感染が起っていました。することは山のようにあり、スタッフ総掛かりで対応。その最中、3月25日、新聞に1面トップで「高知市市立中学校で集団結核」、社会面には「家族に移らないか」と写真入りの記事。保健所の電話は朝から鳴りっぱなし。電話に出ると「どこの中学校か教えろ」という声が響きます。

この集団感染で一番つらい思いをしたのは、初発患者の女の子だったと思います。この女の子がこれ以上悲しい思いをしないように、保健所は対応できるだろうかと不安で息苦しさを覚えたことを覚えています。

学校では保護者説明会が開催され、保健所や学校へ様々な厳しい意見、怒号に近い感情が出されました。それから2年間、保健所ではフル回転で集団感染の対応に取り組みしました。接触者には半年ごとに検診を実施、多くの生徒や先生の結核発病を早期に発見しました。発病した人や予防内服となった人も含めて、服薬を無事終了するよう保健師さんが一人ひとり支援しました。2年後の報告書には、初発患者のお母さんからいただいた手紙を掲載しました。

新型コロナ第2波で障害者支援施設でクラスターが発生したとき、施設の入り口に「がんばれ」と書かれた黄色い幟旗が、見知らぬ誰かによって立てられました。陽光の中、風にたなびく旗の写真を見ると、今でも見知らぬ誰かから勇気をもらうような気になります。また、先ほどの中学校の集団感染では、初発患者のお母さんから感謝の手紙をもらったことで、2年間の対応の経験が、私の中では人を支援していくときの心のワクチンに変わりました。そして、それは20年後の新型コロナ対応の渦中でも、私を支えてくれました。新型コロナ対応で保健所のスタッフは辛い言葉を聞くことが多かったのですが、本日は過分なねぎらいの言葉と貴重な品々を頂戴しました。

新型コロナは一旦落ち着いています。しかし、次に高知市民の健康を脅かす感染症や災

害が発生した際には、本日頂いた品々とお気持ちのワクチンとして、高知市保健所として市民一人ひとりを支援したいと考えています。それが、今後の高知市保健所の新型コ

ロナ対応につながると思っています。そのことに改めて感謝の言葉を述べて、卓話を終わります。本日はありがとうございました。



- 吉永光男 高知市保健所、豊田所長様には感謝状を頂き、本日は卓話をお願いし、忙しいところ、ありがとうございます。ロータリー財団委員会の皆さん、ご苦労様でした。
- 佐野博三 今日は朝からお疲れ様です。保健所長さんありがとうございます。
- 市川哲司 皆さまのご協力のおかげで無事財団の贈呈式と卓話を終えました。本当にありがとうございます。
- 岡崎勇樹 市川財団委員長、本日、高知市保健所への寄贈お疲れ様でした。大変素晴らしい寄贈でした！
- 鬼田知明 市川RC財団委員長、西村副委

員長、午前中は保健所への贈呈式ではお世話になりました。

- 中平真理子 第1分区、2回例会訪問が全て終わりました。ご協力ありがとうございました。ホテル会、優勝金と共に。
 - 福岡真理子 空が澄んで星がきれいに見える季節になりました。午前2時頃から午前4時頃は南の方向にオリオン座、おうし座、大犬座等々、それは息をのむ美しさです。私は目覚ましで起きて庭に出て、毎日空を見上げています。
 - 松野宏司 孫が帰っています。岡会員のところで運転免許をとるべく励んでいます。
 - ザ クラウンパレス新阪急高知 いつもサロンイーストのご利用ありがとうございます。
- ◇遅刻・早退 2件

◇第2回奉仕プロジェクト研究会

2023年9月13日

会長 皆さん、こんばんは。昼の例会、夜は研究会とお疲れのところをお集まりいただきまして、ご苦労様です。

また、今回初めてという方が4人おられます。この研究会は今から10年程前から始まったものですが、コロナもあって、ここ3、4年、低迷をして、会も中断をしていましたが、去年からまた始まったということです。この方向づけというのは、皆さんとともに考えていくものだと思っています。

奉仕プロジェクト研究会というのは、日本語に直すと、奉仕、つまりロータリーの奉仕は職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕、クラブ奉仕という5大奉仕があります。プロジェクトというのは計画という意味で、研究会というのは調べるということです。ですから、5大奉仕のことを調べて、どうい

計画をしていくかということでも物事を考えていった方が分かりやすいのではないかと思うわけです。

話は飛びますが、随分昔に前田さんから「ロータリーはゴミを捨てる人を育てない。ゴミを捨てない人を育てる」という話を聞きました。私も自分なりに考えることがあって、ゴミを捨てない環境をつくることも大事ではないかと、一人ゴゾゴゾしていますが、家の前の草を刈るついでに、隣の家の草を刈ってあげる。そうすると、隣近所のお付き合いが始まっていく。そしてまた隣に広がっていくということで、町内のつながりというものができてきました。

そして、草を刈ることによって、ゴミを捨てる人もいなくなり、散歩に連れてきた犬の糞なんかも全然なくなりました。やはり、き

れいにすればきれいに人が使うということを発見したわけですが、ロータリーというのは、寄付のこともありますけれど、ちょっとだけみんなが汗をかくこと、少しだけ奉仕をすることが、多方面に広がりを持っていくんじゃないかと、最近思っているところです。

高知県のみどり課というのは何だろうか、あちこち行くと草ぼうぼうのところは道路にたくさんあります。なぜ刈らないのかなと思います。やはり、市民一人ひとりがそういう意識を持つようなまちづくりというのをやってほしいなど、最近すごく思うところです。

言葉足りませんが、私の望む奉仕プロジェクト研究会は、私はこういうプログラムで、こういう奉仕活動を考えていますというようなことを発表する場になってもらいたいと思うところです。

今日は皆さんにとりまして、意義のあるプロジェクト研究会になりますことをご祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

◎前田 博会員 講話

皆さん、こんばんは。

今、吉永さんよりプロジェクト研究会の意味というか、お話いただいたのですが、ちょうど私の前の会長、別役さん年度にロータリー財団の仕組みといいますか、それが変わりました。それまでは寄付金を申請したり、申請業務というのは、出しても審査がアメリカでされていて、英文に訳して出さないといけないとか、大変な思いで財団事業というのがあったんです。

それが別役年度から、我々の収める財団への寄付金が、3年経つと半分、地区に返ってくる。その返ってきたお金を各クラブの奉仕活動に充てることができる。その審査を四国内でできるというのが、ちょうど10年程前に制度が変わったんです。それまでは高知、我々のクラブで財団補助金を得るような形というのは、一つしかないんです。それは、私が幹事のとき、1993年だったと思うんですけど、大久保年度のときに中央自動車学校で「老人のための自動車教習」というのを催していただいた。それで高知市内に呼びかけて、受けた方はどうぞというようなやり方をして、

これが全国の今75歳になると、高齢者教習というのを受けるようになった制度の始まりみたいなもの。それをまだできてないときに、東RCがやった。

もう一つホテルの事業です。ホテルの幼虫放流事業というのを、これは鬼頭会員の尽力によりまして、長年ホテルの幼虫をきれいな川に放流するという事業を取り組んで、これは補助金をもらうのにアメリカは難しく、というのは、生態系を崩すというような意見もあり、何年かは補助金をもらって事業をしたように記憶があります。

話は元に戻りますが、奉仕のあり方がどうということなのかということ、口酸っぱく言っていたのが大久保会員なんですね。ロータリーの奉仕とは、こうしなければいけないということをお話されていた。その教育を私が受けているものですから、制度が変わった段階で、これはちょっとクラブでみんなが集まって、少し奉仕のあり方を勉強しなければいけない。ということで、プロジェクト研究会をこしらえたというのが、先ほど吉永さんが話された内容です。

そういうことで始まったのですが、今クラブには「奉仕」という名前のつく委員会が、五つですか、五大奉仕という。この間、浦田さんから職業奉仕のことをお話いただいたんですけど、職業奉仕に特化されるんですけど、奉仕活動というのはそれ以外にあるんですね。国際奉仕もあれば青少年奉仕も、と時代とともに奉仕活動は増えてきているんです。それも非常に大事な奉仕活動で、それらを含めて奉仕のあり方というのは、どういうことかということを考えていかないといけない。

今日は、プロジェクト研究会ではどっちかということ、そのうちの社会奉仕活動のあり方、他は国際奉仕にしても青少年にしても、やることというのは大体決まってるんですね。ただ、社会奉仕活動については、各年度で委員会が決めていくということになってくると思います。そうしたときに、どういう奉仕の考え方で奉仕活動をするかというのは、非常に大事になってくる。この委員会の成り立ちはそういうことで始まりました。

これは私が講演するというよりも、全てロータリーの奉仕はこうであるというのが「ロ

「ロータリー情報マニュアル」の本の中に全部入っています。これは辞書みたいなものです。ロータリー用語で分からないことの説明をしている。それと歴史的なことが文章で載っています。残念ながら、これはもう発刊されていません。見たくても見れない。我々古い人間は持っている方がいると思います。この中の有名な決議文、ロータリーの23年の24というのが話題になると思いますが、その24の中に奉仕のあり方は全て書かれています。それを勉強してないと、奉仕のあり方がちぐはぐになってくるといことです。

資料の中で前段はいいとして、印刷ページでいうと46ページ「地区の補助金交付クラブ一覧」です。四国の各クラブが社会奉仕活動でこんなことをやりますという一覧があります。これは私の会長年度です。これを見ていただくのと、ロータリーの奉仕活動は一体なんぞやということを書いているのと随分違うんですね。そのために、コピーして付けてるんですね。

23の34にいく前に、56ページ、これは1997-1998年の地区大会で、高知東RC「熟年ドライバーの運転技能適正診断会」を社会奉仕委員会でやったものが、意義ある業績賞で表彰されています。それと2008-2009年の地区大会でガバナー賞を東RCは受けていますが、これは水曜会、いわゆる大丸前のバザーから始まったこと。この二つが表彰を受けていますが、もう一つ、42、43ページに今年の「ロータリー友」の7月号に「おむつバンク」の記事が掲載されています。これは西森やよいさんが主催で、ロータリー財団の活動として始めたことで、これは非常に素晴らしくて記事として取り上げられたことはさりながら、丸亀で「おむつバンク」が新しくできているわけです。

そういうふう到我々がやったことが、活動が、他の地区まで伝わって、それをやったださるところが現れて、地域に広がりを持っていることが素晴らしいですね。先ほどの熟年ドライバー技能適正検査というの、今は法律で決められたことになっていて、全国に広がっています。

それと後はこの奉仕プロジェクト研究会によって学ばれたことで、おむつバンクなんか

が始まったということがあります。

それで、特に決議23の34に何と書いてあるかということなんですね。前段はいいとして、奉仕のことだけを、6番を大きい声で読める、山下さん。

(6番を読む)

ありがとうございました。ここに書いているのがロータリーの奉仕のあるべき姿はこうですよというふうな示唆を、これは推奨されているわけで強制ではないんですね。ですけど、どちらかという、地域に広がりを持つような奉仕活動が望ましいと、言えるんじゃないかと思います。そういう意味で、先ほど言った熟年ドライバーにしても、あるいはおむつバンクにしても、地域の広がりを持ってらるんですね。そういう活動は非常に良しとされる。それから、他の団体がやっているものに乗っかるということはありません。それは実はこの23の34の決議ができた背景にはそれがあるんですね。

身体障害者のための施設を経営している方が、いい団体があるということで、ロータリークラブがこぞってその団体に寄付行為をしたりというふうになってきたんですね。それでトラブルが起きて、この23の34が生まれる背景がそういうことです。

この間、今年度の事業として鏡川の草刈りをやったわけですが、これをやり始める前にミーティングをした段階で、役所の許可を得ること、あるいは地域の町内会にお知らせする。参加を強制するんじゃないくて、こういうふうにやりますよということだけをお知らせする。参加できる方がおいでたら参加してくださいというふうなことで始める。残念ながら誰も来られなかったみたいですけど、そういうことによって、これは本来は町内会へバトンが渡されて、町内会自らが、自分ところの草を刈り始めるというふうにつながっていけば、理想的になるんですね。ロータリーの奉仕活動になっていく。

ただ、物を買って何かを渡すという行為は、これはライオンズのことであってロータリーのことではない、本来であれば。そういうふうなことで、今日はチームに分けていますので、いろんなことを話し合っていて、考え方を学んでいただけたらということです。

高知東RC 財団委員会 寄贈式

2023年10月25日(水) 於：高知市保健所



■高知東RC当面の日程

11月15日(水) 第4回クラブ協議会
(例会終了後)
11月22日(水) 18:30～ 東酔会開催予定
11月29日(水) 役員会
12月6日(水) ロータリー休日

12月13日(水) 五大奉仕中間発表・年次総会
定例理事会
12月20日(水) 忘年夜間例会
(ザクラウンパレス)
役員会
12月27日(水) 休会(年末年始の休み)

.....

高知東RC 水曜会 花の贈呈式


2023年10月25日(水) 於：高知市役所前



● ニコニコ箱 ●

	ニコニコ	チビニコ	合計
先週まで	583,262円	2,422円	585,684円
10月25日	32,100円	810円	32,910円
今期の累計	615,362円	3,232円	618,594円

● 出席率報告 ●

	総数	出席	欠席	マイク アップ	HC出席率	出席率
10月25日	⁻⁶ 56	38	9	3	67.36%	82%
10月11日	⁻⁵ 56	45	0	6	80.35%	100%

- 会長／吉永光男 ●幹事／中西克行 ●雑誌会報委員／関 淑公・岡崎勇樹・広瀬雅彦
- 例会日／毎週水曜日12:30PM～1:30PM ●例会場／ザクラウンパレス新阪急高知 (088)873-1111
- 事務所／高知放送南館8階 〒780-0870 高知市本町3-3-39 直通 (088)824-8660
- ホームページアドレス(PC・携帯共通) <http://www.kochi-east-rc.com>
- メールアドレス 事務局／hcrc@coffee.ocn.ne.jp 広報IT委員会／info@kochi-east-rc.com